

頑張れ店長

厳しさの中で何を

今年業界にとって厳しい状況が予想されます。カジノ法案の成立、ECO遊技機の導入、ギャンブル依存症対策……。いずれも業界の質的転換を迫る問題で、1980年のフィーバー機登場並みの衝撃になるかもしれません。フィーバー機はファン層の拡大、売上の急拡大をもたらしましたが、今回は、どんな結果をもたらすのでしょうか。難局に立ち向かう店長さんたちの本音を聞きました。

ECO遊技機を前向きに

「私たち店長にとって最大の課題はECO遊技機への対応です。紆余曲折はあるでしょうが、いずれ導入が始まり、あつという間に主流になるでしょう。導入時の費用はかなりの金額になるでしょうが、入れ替え費用は割安、補給設備は不要、玉箱運びがなくなり、セキュリティが格段にアップするのですから、個人的には期待しています。しかし、お客様がどう反応

するのか、ホールとして各台のメリハリをどうつけるのか、不安もあります。あくまでも前向きに取り組みたいと思っています」

（関東・A店長）

パーソナルシステムのようになり、運びが不要になり、ゴトもやりにくくなれば、ホールのフロア回りが今より少人数ですむようになり、この面でもECO遊技機はコスト削減効果を期待できます。

将来もカジノは怖くない

「今年にはカジノ法案が成立し、『カジノリゾート』の立地選定も具体化しそうです。しかし、施設数は限定され、日本人の入場制限が設けられるようですから、パチンコ業界への影響はあまりないと思われれます。もし将来、『カジノリゾート』が増え、パチンコのファン層とは異なるので、競馬や競輪などと同じように、それぞれ住み分けができると思っています。そもそも行政の監視のもとで、カジ

ノ経営のノウハウがない中、どれほどの利益を上げられるのか。経営が厳しい地方競馬や競輪のように先行きが危ぶまれると思っています」

（中部・B店長）

運営のノウハウを60年以上も蓄積してきたパチンコ業界にとって、新興のカジノは恐れるに足りない」とB店長は強気です。

現場で使える依存対策を

「昨年、厚生労働省がパチンコや競馬のギャンブル依存症の人が36万人にのぼると推計しました。私の実感として、そんなに膨大な依存症患者がいると思えず、その50分の1か100分の1程度でしょう。しかし、ギャンブル依存症の人がいるのは事実ですし、本人はもとより周囲にも深刻な影響を及ぼしています。業界は行政からの要請もあって、ホールとして『パチンコは適度な遊びです』という

店長からの投稿

バレーボー

ル日本代表の選手が、パチンコ

台に置いてあった財布に入っていた14万

円を盗んだとして、窃盗の容疑で逮捕されました。

捕まったのがバレー日本代表だからニュースになったわけ

で、ホールではこの種の置き引きは珍しくありません。なに

して席取りのため、上皿に財布や携帯電話を置いて、トイレに行くな

どして席を離れる人が多い。最初から狙っていたわけではなく、つい出

来心で置き引きするケースも少なく

ないでしょう。逆にいえば、犯罪

を誘発しているわけで、本当に「罪つ

くり」です。席取りで置くのは、ハン

カチくらいにしてほしいものです。う

ちの店では、財布や携帯電話で席取り

をするお客様を見かけたら、代わりに

「遊技中」の札を渡して置いてもらい、もし遊技台に置いてある財布や携帯電話を

見つけたら、盗まれないようにスタッフが見張って、戻ってきたら「今後、2度と高

価なものを置きっぱなしになさらないように」と注意しています。（関東・店長）

置き引き誘発する「席取り」財布など そのたびに注意

は金融業者のチラシを店内や駐車場で見つけたら撤去していますし、金融業者の店内への立ち入りを禁止しています。しかし、依存症の本人への対応となると、負けて熱くなっているお客様に「お疲れでしょう。休憩を取って適度にお遊びください」と声をかけると怒りに火を付けそうです。日遊協もプロジェクトチームを組んで対策案を練っています

るようですが、現場で活用できる妙手を期待しています」(関東・C店長)

中高年層を取り込めば

「この数年、リタイア後の男性客と、子育てを終えた中年の女性客の集客に力を入れてきました。その甲斐があつて、常連さんとして定着しています。うちの店は休憩コーナーを広くとつて、新聞や週刊誌を揃えているので、お客様は缶コーヒーを飲みながら週刊誌を読みふけったり、顔見知りとおしゃべりに花を咲かせたりしています。中高年客は使うお金はさほど多くありませんが、来店頻度が高いです。中高年層を取り込めば1円パチンコや5円スロットを中心に稼働率は向上します」(中部・D店長)

D店長が、中高年をターゲットにすることを思いついたのは、地域の老人施設がデイサービスで多くの高齢者を「集客」していることを知ったからです。

実家の父も喜んで遊技

「実家の父が会社を定年退職してから、ホールに通うようになりました。世間話をする顔見知りが増えてきたようで、時間つぶしにもつて

こいだそうです。母を連れて行ったときは、ビギナーズラックで当たりが続いた母が、久々に興奮したといっていました。今年は業界にとつて厳しい環境になりそうですが、中高年層の集客に力を入れたいと思っています」(中部・E店長)

65歳になると「高齢者」と呼ばれますが、毎年200万人もの高齢者が生まれます。何としても取り込みたいものです。

外国人旅行者の「体験」を

「6年前のリーマンショックでは客足が落ちて売上も厳しかったです。昨年は消費増税の影響で客単価が落ちました。アベノミクスは一部の人に恩恵があつたのかもしれませんが、増税と物価の値上がりで庶民の財布の紐は締まったのです。今年は明るい材料がありませんが、外国からの観光客が増えているので、ホールへの取り込みを考えています。具体的には、旅行会社に頼んで、パチンコ体験のオプショナルツアーを募集してもらおうのです」(関東・店長)

パチンコは日本ならではの娯楽です。外国人向けのガイドブックで積極的に紹介していただきたいものです。